

神田池

(じんでんいけ)



自然に囲まれた神田池



ため池の堤と水面

ため池の概要

ため池の所在地
茨城県稲敷郡阿見町

ため池の特徴

神田池は江戸時代、地元の集落民が、新田開発(14ha)のため谷津に堤を築き、周辺林からの湧水を溜めたものです。

明治から大正期にはコイの養殖場として利用されていましたが、その間も3年ごとに水門を開けて「池流し」等の管理が行われていました。現在は周辺の水田の農業用水として利用されています。

池は様々な樹木に囲まれ、アヤメ・ミクリ等の水生植物が繁茂した自然環境は、訪れる人の心をなごませてくれます。特に堤防から眺める夕日は素晴らしい景観で、平成5年には阿見名所百選に選ばれています。

堤防下の用水路には多種類の貝類や昆虫類が生息し、初夏にはヘイケボタルが観察できるほか、他の地域では絶滅が懸念されている植物も観察できます。

また、里山や自然を大切にする心を育てる「自然体験」「自然観察」の場と位置づけ、平成12年に設立された「神田池を保全する会」が、学校や子供会と連携し観察会を行っています。

関連情報